

長崎県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	100点
問題構成	大問4題。文学的文章、古文、説明的文章、グラフや資料の読み取りの構成。 [一] は文学的文章32点。出典（『かわせみのみちくさ』瀧羽麻子）。記述式は1問、配点は7点。 [二] は古文19点。出典（『醒醉笑』）。記述式は2問、配点は7点。 [三] は説明的文章30点。出典（『言葉なんていない？私と世界のあいだ』古田徹也）。記述式は2問、配点は9点。 [四] は資料と会話文の読み取り19点。話し合いの内容と、資料の内容を照らし合わせながら、解答することが求められる。記述式は1問、配点は12点。		

	令和8年度(2026)	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)
問題量（A4で）	8ページ分	8ページ分	8ページ分	8ページ分	8ページ分
小問数	28問	27問	28問	31問	31問
論述問題の数	6問	5問	7問	6問	10問
論述問題配点	35点	33点	36点	30点	41点

【出題の傾向と対策】

① [一]文学的文章

なぜそのような行動をしたのか、この行動はどのような心情と結びついているのかといった、文学的文章の基本的な問題が出題されている。

R8大問一

問六 傍線部④について、おばあちゃんがどのように千春に問いかけたのはなぜか。解答欄に合う形で七十字以内で書け。ただし、本文の語句を用いて書くこと。

（答え：時には時には道草をしながら目の前の道を歩いていたら、いつの間にか高いところまで来ていたということも楽しそうであり、経験したことは自分の中に残る）

夢や目標が決まらないまま、 ということ千春に伝えたかったから。

☞本問で注目すべきところ

①おばあちゃんの人物像（考え方）を文章全体から把握する ②直前にどのような出来事がおきているかを把握する ③傍線部の後ろ、3～5行の内容をまとめる といった心情把握に必要な要素を読み解く際に整理できているかを問われている点。

☞考え方と傾向

本問を解く前提として、全体を把握したうえで問題にあたるようにする必要がある。また、千春の心情を中心に聞かれているところに、おばあちゃんの心情を問う問題が入れられているので、しっかりと「主語」について確認していく意識が必要である。

②[二]古典

本文の横にある現代語訳と、本文の後にある注釈は必ずチェックすること。動作や会話の主語を把握しながら読解することを日頃から心掛ける必要がある。

R7 大問二

問三 次の【会話】は、本文について、先生と生徒が話している場面である。【会話】を読んで、後の（１）～（４）について答えよ。

☞本問で注目すべきところ

会話の読み解きと古文内容の理解を同時に求めている点。

☞考え方と傾向

実際の問題は、主語の確定、内容把握をもとにした記述であり、それまで独立して出題されていた内容を昨

年と同じように、「見かけを変えて」出題されたものである。古文の基礎をしっかりと学習していれば十分に正答できたと思われる。ただし、今年は「沓冠」という表現技法が使われているが、説明が書いてあるので、それを読み、当てはまるだけである。今後もこのような出題が続くと考えられる。

③[三]説明的文章

ときおり難しい語、表現があるが、内容を整理しつつ、重要なポイントを抑えて読むという読み方の基本ができていれば、十分に対応できる問題。

R8 大問三

問五 傍線部④について、多義語が「複数の側面からなる多面体である」とはどういうことか。解答欄に合う形で四十字以内で書け。

(答え：複数の意味を持ち、そのどの意味とも言い切りがたい独特のニュアンスを持つ)

多義語は ものであるということ。

☞本問で注目すべきところ

比喩の読み取りの際に、傍線部前後の文章内容を正確に読み取ることを求めている点。

☞考え方と傾向

傍線部分の前に、「つまり、『優しい』には「ひ弱」という側面、繊細と言う側面、「上品」、「親切」などの側面もあるとあり、傍線部分の後でも、「せつない」という言葉を上げ、複数の意味に解釈できるという点を指摘しているため、文脈の把握がしっかりとできているかが重要である。

④[四]資料、会話を読み解き、条件に従い意見を構築する問題が中心。条件に合わせた客観的な記述が求められている。

R7 大問四

問二 傍線部②について、あなたならどのようにまとめるか。次の**条件Ⅰ**、**条件Ⅱ**にしたがって書け。

条件Ⅰ **資料1**の詩に見られる表現の工夫とその効果を百字以内で書くこと。ただし、【会話】及び**資料2**、**資料3**をふまえること。

条件Ⅱ **資料3**から挙げる表現の工夫については、詩の該当する部分がわかるように書くこと。なお、**資料3**の表現の工夫については、どれを選んでもよい。

☞本問で注目すべきところ

意見作文ではなく、条件を把握し、把握した条件を満たすように記述する点。主観的な意見を述べると、得点が低くなると思われる。

☞考え方と傾向

100字の記述ではあるが、条件を満たすように書くだけで、合格点を取ることができる。逆にいえば、条件を守らない記述は得点が低くなるということである。昨年、今年と同じ傾向の問題が出題されているので、まずは問題の条件を漏らさず、チェックし、対応する練習を積むことが大切である。

解答例： ひらがなを多用することで読者に柔らかい印象を与え、オノマトペを用いることでイメージが伝わりやすくなっている。また、「あかるい空」のように体言止めを用いることで余韻を感じさせる効果がうまれる。